育苗期間の防除

RPA

病害虫名	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
ﾑﾚ苗防止	ﾀﾁｶﾞﾚｴｰｽM液剤	32,4		500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り500mL	は種時又は発芽後	土壌灌注	1回
	ﾀﾁｶﾞﾚｴｰｽM粉剤	32,4		育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り6～8g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和	1回
	ﾀﾁｶﾞﾚﾝ液剤	32		500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り500mL	は種時又は発芽後	土壌灌注又は灌注	2回以内
	ﾀﾁｶﾞﾚﾝ粉剤	32		育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り4～8g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和する。	1回
褐条病	ｶｽﾐﾝ液剤	24		4～8倍	育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り希釈液50mL	覆土前	は種した種籾の上から均一に散布する。	1回
	ｶｽﾐﾝ粒剤	24		育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り30g		は種前	育苗培土に均一に混和する。	1回
				育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り15～20g		覆土前	育苗箱には種した種籾の上から均一に散布する。	1回
根の生育促進	ﾀﾁｶﾞﾚｴｰｽM液剤	32,4		500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り500mL	は種時又は発芽後	土壌灌注	1回
	ﾀﾁｶﾞﾚｴｰｽM粉剤	32,4		育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り6～8g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和	1回
	ﾀﾁｶﾞﾚﾝ液剤	32		500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り500mL	は種時又は発芽後	土壌灌注又は灌注	2回以内
	ﾀﾁｶﾞﾚﾝ粉剤	32		育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り4～8g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和する。	1回
苗立枯細菌病	ｶｽﾐﾝ液剤	24		4～8倍	育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り希釈液50mL	覆土前	は種した種籾の上から均一に散布する。	1回
	ｶｽﾐﾝ粒剤	24		育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り15～20g		覆土前	育苗箱には種した種籾の上から均一に散布する。	1回
				育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り30g		は種前	育苗培土に均一に混和する。	1回
苗立枯病(ﾄﾘｺﾃﾞﾙﾏ菌)	ﾀﾞｺﾚｰﾄ水和剤	M5,1		400～600倍	育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り0.5ﾘｯﾄﾙ	は種時から緑化期但し､は種14日後まで	灌注	2回以内
				800～1200倍	育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り1ﾘｯﾄﾙ	は種時から緑化期但し､は種14日後まで	灌注	2回以内
	ﾍﾞﾝﾚｰﾄ水和剤	1		500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り500mL	は種時1回又はは種時とは種7日後頃の2回	灌注	2回以内
苗立枯病(ﾋﾟｼｳﾑ菌)	ﾀﾁｶﾞﾚｴｰｽM液剤	32,4		500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り500mL	は種時又は発芽後	土壌灌注	1回
	ﾀﾁｶﾞﾚｴｰｽM粉剤	32,4		育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り6～8g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和	1回
	ﾀﾁｶﾞﾚﾝ液剤	32		500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り500mL	は種時又は発芽後	土壌灌注又は灌注	2回以内
	ﾀﾁｶﾞﾚﾝ粉剤	32		育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り3～6g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和する。	1回
	ﾅｴﾌｧｲﾝﾌﾛｱﾌﾞﾙ	U17		1000～2000倍	育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り0.5ﾘｯﾄﾙ	は種時から緑化期	土壌灌注	2回以内
				2000倍	育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り0.5～1ﾘｯﾄﾙ	は種時	土壌灌注	2回以内

病害虫名	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
苗立枯病(ﾌｻﾞﾘｳﾑ菌)	ﾀﾞｺﾚｰﾄ水和剤	M5,1		800～1200倍	育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り1ﾘｯﾄﾙ	は種時から緑化期 但し､は種14日後まで	灌注	2回以内
				400～600倍	育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り0.5ﾘｯﾄﾙ	は種時から緑化期 但し､は種14日後まで	灌注	2回以内
	ﾀﾁｶﾞﾚｴｰｽM液剤	32,4		500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り500mL	は種時又は発芽後	土壌灌注	1回
苗立枯病(ﾌｻﾞﾘｳﾑ菌)	ﾀﾁｶﾞﾚｴｰｽM粉剤	32,4		育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り6～8g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和	1回
	ﾀﾁｶﾞﾚﾝ液剤	32		500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り500mL	は種時又は発芽後	土壌灌注又は灌注	2回以内
	ﾀﾁｶﾞﾚﾝ粉剤	32		育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り3～6g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和する。	1回
	ﾅｴﾌｧｲﾝﾌﾛｱﾌﾞﾙ	U17		2000倍	育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り0.5～1ﾘｯﾄﾙ	は種時	土壌灌注	2回以内
				1000倍	育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り0.5ﾘｯﾄﾙ	は種時	土壌灌注	2回以内
	ﾀﾞｺﾆｰﾙ1000	M5		1000～2000倍	育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り1ﾘｯﾄﾙ	は種時から緑化期 但し､は種14日後まで	土壌灌注	2回以内
				500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り500mL	は種時から緑化期 但し､は種14日後まで	土壌灌注	2回以内
	ﾀﾞｺﾆｰﾙ粉剤	M5		育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り15～20g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和する。	1回
	ﾀﾞｺﾚｰﾄ水和剤	M5,1		400～600倍	育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り0.5ﾘｯﾄﾙ	は種時から緑化期 但し､は種14日後まで	灌注	2回以内
				800～1200倍	育苗箱(30×60×3cm､使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り1ﾘｯﾄﾙ	は種時から緑化期 但し､は種14日後まで	灌注	2回以内
	ﾅｴﾌｧｲﾝﾌﾛｱﾌﾞﾙ	U17		2000倍	育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り0.5～1ﾘｯﾄﾙ	は種時	土壌灌注	2回以内
				1000倍	育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り0.5ﾘｯﾄﾙ	は種時	土壌灌注	2回以内
幼苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)	ｶｽﾐﾝ粒剤	24		育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り15～20g		覆土前	育苗箱には種した種籾の上から均一に散布する。	1回
				育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ)1箱当り30g		は種前	育苗培土に均一に混和する。	1回

育苗箱施薬による病害虫防除

	使用時期	薬剤名	抵抗性誘導	いもち病	紋枯病	白葉枯病	もみ枯細菌病	内頴褐変病	穂枯れ（ごま葉枯れ病菌）	イネハモグリバエ	イネヒメハモグリバエ	イネゾウムシ	イネミズゾウムシ	イネドロオイムシ	ニカメイチュウ	イナゴ類	ツマグロヨコバイ	ウンカ類	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	フタオビコヤガ	イネツトムシ	コブノメイガ	イネクロカメムシ	カメムシ類	イネシンガレセンチュウ
殺菌剤	緑化期～移植当日	Ｄｒ．オリゼ箱粒剤	○	50		50	50		50																
		〃（高密度に播種する場合）		50～100（3日前～）		50～100（3日前～）	50～100（3日前～）		50～100（当日）																
殺虫剤	は種前、移植当日	パダン粒剤４								50～100		幼虫80～100	60～100	50～100	50～100		50～100						50～100			
	は種前、又は種時（覆土前）～移植当日	ゼロカウント粒剤									50（当日）		幼虫50（当日）	50	50（２日前～）						50（は種時～）	50（2日前～）				
		〃（高密度に播種する場合）									50～100（当日）		幼虫50～100（当日）	50～100	50～100（２日前～）						50～100（は種時～）	50～100（2日前～）				
		プリンス粒剤									50		50	50	50	50		50			50	50（は種前）	50	50		50（は種時）
		〃（高密度に播種する場合）									50～100		50～100	50～100	50～100	50～100		50～100			50～100（は種時～）	50～100（は種前）	50～100	50～100（は種時～）		50～100（は種時）
		フェルテラ箱粒剤									50（当日）		50	50	50		50（当日）				50	50	50			
		〃（高密度に播種する場合）									50～100（当日）		50～100	50～100	50～100		50～100（当日）				50～100	50～100	50～100			
	移植３日前～移植当日	オンコル粒剤５								30～60	30～60		30～60	30～60			50～160		50～80	50～80						60
		〃（高密度に播種する場合）								30～120（当日）	50～120（当日）		50～120（当日）	30～120（当日）			50～160（当日）		50～160（当日）	50～160（当日）						60～120（当日）
		リディア箱粒剤									50		50	50	50	50	50	50			50					
		〃（高密度に播種する場合）									50～100		50～100	50～100	50～100	50～100	50～100	50～100			50～100					
殺菌・殺虫剤	は種前、は種時（覆土前）	ファーストオリゼリディア粒剤	○	50									50	50	50	50	50	50			50					
		ファーストオリゼフェルテラ粒剤	○	50（は種前～）		50（は種時）	50（は種時）				50（は種時）		50	50（は種前～）	50		50				50	50				
		〃（高密度に播種する場合）		50～100g（は種時）		50～100g（は種時）	50～100g（は種時）				50～100g（は種時）		50～100g（は種時）	50～100g（は種時）	50～100g（は種時）		50～100g（は種時）				50～100g（は種時）	50～100g（は種時）				
	は種前、は種時（覆土前）～移植当日	ブーンパディート箱粒剤	○	50（は種前～）		50（当日）	50（当日）	50（当日）	50（当日）	しゅっき	50（当日）		50（は種前～）	50（は種前～）	50（は種時～）	50（当日）	50（当日）		50（当日）		50（は種時～）	50（は種時～）	50（当日）			
		〃（高密度に播種する場合）		50～100（は種時）		50～100（当日）	50～100（播種時）	50～100（当日）	50～100（当日）		50～100（当日）		50～100（は種前）	50～100（は種前）	50～100（は種時～）	50～100（当日）	50～100（当日）		50～100（当日）		50～100（は種時～）	50～100（当日）	50～100（当日）			
		ヨーバルトップ箱粒剤	○	50～75		50～75	50～75	50～75	50～75（3日前～）		50～75（3日前～）		50～75	50～75	50～75	50～75	50～75				50～75	50～75	50～75			
		〃（高密度に播種する場合）		50～100		50～100	50～100	50～100	50～100（3日前～）		50～100（3日前～）		50～100	50～100	50～100	50～100	50～100				50～100	50～100	50～100			
		ヨーバルプライムＥＶ箱粒剤	○	50（は種前～）	50	50	50（3日前～）	50（3日前～）	50（3日前～）		50		50（は種前～）	50	50	50	50				50	50	50			
		〃（高密度に播種する場合）		50～100	50～100	50～100	50～100（3日前～）	50～100（3日前～）	50～100（3日前～）		50～100		50～100	50～100	50～100	50～100	50～100				50～100	50～100	50～100			
		エバーゴルワイド箱粒剤	○	50	50	50（播種時）	50（当日）	50（播種時）	50（播種時）				50	50	50	50（は種前）	50	50			50	50	50			
		〃（高密度に播種する場合）		50～100（3日前～）	50～100（3日前～）	50～100（3日前～）	50～100（当日）	50～100（3日前～）	50～100（3日前～）				50～100（3日前～）	50～100（3日前～）	50～100（3日前～）	50～100（3日前～）	50～100（3日前～）	50～100（3日前～）			50～100（3日前～）	50～100（3日前～）	50～100（3日前～）			
		スタウトアレス箱粒剤	○	50		50	50	50	50		50		50	50	50	50	50	50			50	50	50			
		〃（高密度に播種する場合）		50～100		50～100	50～100	50～100	50～100		50～100		50～100	50～100	50～100	50～100	50～100	50～100			50～100	50～100	50～100			
		スタウトアレスモンガレス箱粒剤	○	50（は種時～）	50（は種時～）	50（は種時～）	50（は種時～）	50（は種時～）	50（は種時～）				50（は種時～）	50（は種時～）	50（は種時～）	50（は種時～）	50（は種時～）	50（は種時～）			50（は種時～）	50（は種時～）	50（は種時～）			
		〃（高密度に播種する場合）		50～100（は種時～）	50～100（は種時～）	50～100（は種時～）	50～100（は種時～）	50～100（は種時～）	50～100（は種時～）				50～100（は種時～）	50～100（は種時～）	50～100（は種時～）	50～100（は種時～）	50～100（は種時～）	50～100（は種時～）			50～100（は種時～）	50～100（は種時～）	50～100（は種時～）			
		スタウトダントツ箱粒剤	○	50		50	50	50	50		50		50	50	50		50	50			50					
		〃（高密度に播種する場合）		50～100		50～100	50～100	50～100	50～100		50～100		50～100	50～100	50～100		50～100	50～100			50～100					
		スタウトパディート箱粒剤 ツインパディート箱粒剤 ルーチンデュオ箱粒剤	○	50		50	50	50	50		50		50	50	50	50	50		50		50	50	50			
		〃（高密度に播種する場合）		50～100		50～100	50～100	50～100	50～100		50～100	50～100	50～100	50～100	50～100	50～100	50～100		50～100		50～100	50～100	50～100			
		スタウトパディートＤＸ箱粒剤	○	50		50	50	50	50				50	50	50	50（3日前～）	50	50			50	50				
		〃（高密度に播種する場合）		50～100		50～100	50～100	50～100	50～100				50～100	50～100	50～100	50～100（3日前～）	50～100	50～100			50～100	50～100				
		スタウトダントツ箱粒剤０８ ツインターボ箱粒剤０８	○	50		50	50	50	50		50		50	50			50	50						50（当日）		
		〃（高密度に播種する場合）		50～100		50～100	50～100	50～100	50～100		50～100		50～100	50～100			50～100	50～100						50（当日）		
		ブーンアレス箱粒剤	○	50		50	50	50	50		50（当日）	50	50	50	50	50	50	50			50	50	50			
		〃（高密度に播種する場合）		50～100	50～100	50～100	50～100	50～100			50～100（当日）	50～100	50～100	50～100	50～100	50～100	50～100	50～100			50～100	50～100	50～100			
		ブーンレパード箱粒剤	○	50	50	50（当日）	50（当日）	50（当日）	50（当日）				50	50	50（は種時～）		50（当日）				50（は種時～）	50（は種時～）				
		〃（高密度に播種する場合）		50～100（は種時～）	50～100（は種時～）	50～100（当日）	50～100（当日）	50～100（当日）	50～100（当日）				50～100（は種時～）	50～100（は種時～）	50～100（は種時～）		50～100（当日）				50～100（は種時～）	50～100（は種時～）				

育苗箱施薬による病害虫防除

	使用時期	薬剤名	抵抗性誘導	いもち病	紋枯病	白葉枯病	もみ枯細菌病	内頴褐変病	穂枯れ（ごま葉枯れ病菌）	イネハモグリバエ	イネヒメハモグリバエ	イネゾウムシ	イネミズゾウムシ	イネドロオイムシ	ニカメイチュウ	イナゴ類	ツマグロヨコバイ	ウンカ類	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	フタオビコヤガ	イネツトムシ	コブノメイガ	イネクロカメムシ	カメムシ類	イネシンガレセンチュウ
殺菌・殺虫剤	は種前、は種時（覆土前）～移植当日	ルーチンエキスパート箱粒剤	○	50（は種時～）	50（は種時～）	50（は種時～）	50（当日）	50（は種時～）	50（は種時～）				50（は種時～）	50（は種時～）	50（は種時～）		50（は種時～）	50（は種時～）			50（は種時～）	50（は種時～）	50（は種時～）			
		〃（高密度に播種する場合）		50～100（3日前～）	50～100（3日前～）	50～100（3日前～）		50～100（3日前～）	50～100（3日前～）				50～100（3日前～）	50～100（3日前～）	50～100（3日前～）		50～100（3日前～）	50～100（3日前～）			50～100（3日前～）	50～100（3日前～）	50～100（3日前～）			
		レシードプラス箱粒剤	○	50		50		50					50	50	50	50（3日前～）	50				50	50				
		リョーガフェルテラ粒剤	○	50								50		50	50											
	緑化期～移植当日	ブイゲットハコレンジャーL粒剤	○	50	50	50	50	50（3日前～）					50	50	50		50	50			50	50	50			
		〃（高密度に播種する場合）		50～100	50～100	50～100	50～100	50～100（3日前～）					50～100	50～100	50～100		50～100	50～100			50～100	50～100	50～100			
		ブイゲットパディート粒剤	○	50		50	50				50		50	50	50	50	50		50（3日前～）		50	50（3日前～）	50			
		〃（高密度に播種する場合）		50～100		50～100	50～100				50～100		50～100	50～100	50～100	50～100	50～100		50～100（3日前～）		50～100	50～100（3日前～）	50～100			
		ブイゲットフェルテラ粒剤	○	50		50	50（3日前～）				50（3日前～）		50	50	50		50				50	50（当日）	50（当日）			
		〃（高密度に播種する場合）		50～100		50～100	50～100（3日前～）				50～100（3日前～）		50～100	50～100	50～100		50～100				50～100	50～100（当日）	50～100（当日）			
		ブイゲットプリンスリンバーL粒剤	○	50	50	50	50（3日前～）	50（当日）					50	50	50			50				50	50			
		〃（高密度に播種する場合）		50～100	50～100	50～100	50～100（3日前～）	50～100（当日）					50～100	50～100	50～100			50～100				50～100	50～100			
		Dr．オリゼパディート粒剤	○	50							50（当日）		50	50	50（3日前～）	50（当日）	50		50		50（3日前～）	50（3日前～）				
		〃（高密度に播種する場合）		50～100（3日前～）							50～100（当日）		50～100（3日前～）	50～100（3日前～）	50～100（3日前～）	50～100（当日）	50～100（3日前～）		50～100（3日前～）		50～100（3日前～）	50～100（3日前～）				
		Dr．オリゼフェルテラ粒剤	○	50		50（3日前～）	50（3日前～）	50（3日前～）			50（3日前～）		50	50	50		50				50	50	50（当日）			
		〃（高密度に播種する場合）		50～100（3日前～）		50～100（3日前～）	50～100（3日前～）	50～100（3日前～）			50～100（3日前～）		50～100（3日前～）	50～100（3日前～）	50～100（3日前～）		50～100（3日前～）				50～100（3日前～）	50～100（3日前～）	50～100（当日）			
	移植１０日前～移植当日	ブイゲットバリアード粒剤	○	50		50	50（3日前～）						50	50	50（当日）		50									
		〃（高密度に播種する場合）		50～100		50～100	50～100（3日前～）						50～100	50～100	50～100（当日）		50～100									
	移植７日前～移植当日	箱いり娘粒剤	○	50	50	50	50	50	50		50		50	50	50		50	50			50	50	50			
		〃（高密度に播種する場合）		50～100	50～100	50～100	50～100	50～100	50～100		50～100		50～100	50～100	50～100		50～100	50～100			50～100	50～100	50～100			
		箱大臣粒剤	○	50	50	50	50	50	50				50	50	50		50	50			50					
		〃（高密度に播種する場合）		50～100	50～100	50～100	50～100	50～100	50～100				50～100	50～100	50～100		50～100	50～100			50～100					
		Cs．オリゼリディアＥＶ箱粒剤	○	50	50								50	50	50（3日前～）			50								
		〃（高密度に播種する場合）		50～100（3日前～）	50～100（3日前～）								50～100（3日前～）	50～100（3日前～）	50～100（3日前～）			50～100（3日前～）								
	移植３日前～移植当日	サンエース箱粒剤	○	50	50	50	50	50	50				50	50	50		50	50			50	50	50			
		〃（高密度に播種する場合）		50～100	50～100	50～100	50～100	50～100	50～100				50～100	50～100	50～100		50～100	50～100			50～100	50～100	50～100			
		サントリプル箱粒剤	○	50		50	50	50					50	50	50	50	50	50			50	50	50	50		
		〃（高密度に播種する場合）		50～100		50～100	50～100	50～100					50～100	50～100	50～100	50～100	50～100	50～100			50～100	50～100	50～100	50～100		
		ジャッジ箱粒剤	○	50		50	50				50		50	50	第1世代50		50		50	50						50
		〃（高密度に播種する場合）		50～100（当日）		50～100（当日）	50～100（当日）				50～100（当日）		50～100（当日）	50～100（当日）	第1世代50～100（当日）		50～100（当日）		50～100（当日）	50～100（当日）						50～100（当日）
		ツインキック箱粒剤		50		50	50				50（当日）		50	50	50	50（当日）					50	50				
		〃（高密度に播種する場合）		50～100		50～100	50～100				50～100（当日）		50～100	50～100	50～100	50～100（当日）					50～100	50～100				
		デジタルコラトップアクタラ箱粒剤		50									50	50	50（当日）		50	50						50（当日）		
		〃（高密度に播種する場合）		50～100									50～100	50～100	50～100（当日）		50～100	50～100						50～100（当日）		
		デジタルメガフレア箱粒剤		50									50	50	50（当日）		50（当日）	50							50	
		〃（高密度に播種する場合）		50～100									50～100	50～100	50～100（当日）		50～100（当日）	50～100							50～100	
		トリプルキック箱粒剤	○	50	50	50	50	50	50		50（当日）		50	50	50	50（当日）					50	50				
		〃（高密度に播種する場合）		50～100	50～100	50～100	50～100	50～100	50～100		50～100（当日）		50～100	50～100	50～100	50～100（当日）					50～100	50～100				
		ルーチンコア箱粒剤	○	50		50	50	50	50		50		50	50	50		50									
		〃（高密度に播種する場合）		50～100		50～100	50～100	50～100	50～100		50～100		50～100	50～100	50～100		50～100									
		Dr．オリゼフェルテラグレータム粒剤	○	50	50	50	50						50	50			50				50					
		〃（高密度に播種する場合）		50～100	50～100	50～100	50～100						50～100	50～100			50～100				50～100					

育苗箱施薬による病害虫防除

	使用時期	薬剤名	抵抗性誘導	いもち病	紋枯病	白葉枯病	もみ枯細菌病	内頴褐変病	穂枯れ（ごま葉枯れ病菌）	イネハモグリバエ	イネヒメハモグリバエ	イネゾウムシ	イネミズゾウムシ	イネドロオイムシ	ニカメイチュウ	イナゴ類	ツマグロヨコバイ	ウンカ類	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	フタオビコヤガ	イネツトムシ	コブノメイガ	イネクロカメムシ	カメムシ類	イネシンガレセンチュウ
殺菌殺虫剤・	移植３日前～移植当日	Dr. オリゼリディア箱粒剤	○	50							50		50	50	50	50	50	50			50					
		〃　（高密度に播種する場合）		50～100							50～100		50～100	50～100	50～100	50～100	50～100	50～100			50～100					
	移植２日前～移植当日	ルーチンアドスピノＧＴ箱粒剤	○	50	50	50	50（当日）	50（当日）					50	50	50		50	50			50	50	50			

水稲種子消毒の手順と育苗管理

種子選定

・採種圃産種子を使用する。
・傷籾や脱ぷ籾が混入していないものを使用する。

比重選

・重症感染籾の除去に有効。
・水と硫安の量はおよそ次のとおりであるが、必ず比重計で比重を調整する。

	比重	水	硫安
うるち	1.13	10 ℓ	2.64kg
もち	1.08	10 ℓ	1.50kg

消毒

薬剤処理

【湿粉衣処理】
・適度の湿り気を与えた籾（種子重の約 3%の水分量）に所定量の薬剤を少しずつ加え粉衣する。
・胴回転式ミキサー利用の場合は、粉衣後に左右それぞれ 3 分間計 6 分間程度回転する。

【浸漬処理】
・液温は**１０℃以上**とする。
・浸漬薬液の量は種子容量と等量（籾１８ ℓ＝１０kg、薬液１８ℓ）くらいで消毒を行う。なお、同一薬液で何回も消毒を繰り返す場合は、最初の容量比を籾１：薬液 1.2 の割合にすれば浸漬ごとに薬液を追加しなくても８回まで使用できる。
・浸漬中に２～３回袋を上下、または攪拌する。

【吹き付け処理】
・専用の種子消毒器を用いて、乾燥種子 1kg 当たり３０ml の希釈液を種籾に吹き付ける。

【塗沫処理】
・適当な容器内で種籾を攪拌しながら、希釈液を滴下し、種籾に均一に付着させる。

温湯処理

・温湯処理専用の機械を使用する。
・処理条件として、**６０℃１０分**または**５８℃１５分**が妥当である。
・対象病害はいもち病、ばか苗病、苗立枯細菌病である。
・褐条病には効果が不十分であるが、温湯処理に加え、催芽時に食酢 200 倍液浸漬処理することで防除効果が得られる。
・温湯処理は乾燥籾で行い、**処理温度と時間を厳守**する。濡れた種籾で行うと発芽不良の原因となり、温度・時間が不適切だと発芽不良を起こしたり消毒効果が十分に得られない。特に温度が高い場合や消毒時間が長い場合には発芽率が低下するので注意する。
・処理後は速やかに水で冷却し、直ぐに浸種を行う。
・防除効果が高い新技術(事前乾燥＋65℃10 分)には専用設備使用が望ましい。

風乾

・十分風乾し、籾に薬剤を固着させる。

【湿粉衣籾、塗沫籾】
・サラン袋詰めの場合は風通しのよい日陰に２～４日間おく。
・シートの上に薄く広げる場合は日陰に３～６時間おく。

【浸漬籾】
・シートの上に薄く広げ、日陰に２日間おく。
・袋詰めによる風乾はしない。

浸　　種

・防除効果の低下を防ぐため、停滞水中で行い、浸種開始から３日間は換水しない。
・病原菌の感染防止のため、河川、湖沼、ため池等の水は使わない。
・病原菌の増殖・感染防止のため、**２０℃以上**で浸種しない。

温度	浸種日数
１０℃	１０日間
１５℃	７日間

催　　芽

・**３０℃**で１～２日間行い、催芽揃いのよい状態にする。
・病原菌の増殖を防ぐため、**３０℃**を超えないようにする。
・特にテクリードＣフロアブル、モミガードＣ水和剤・ＤＦを使用したときは、初期生育が遅延することがあるので、十分にはとむね状態にする。
※モミガードＣ水和剤、モミガードＣ･ＤＦで、循環式の浸種水槽・催芽器を使用する場合は、循環水に空気が混じると泡が発生するので、給水口を水面下に入れる。また、泡は汚れた水でも発生するので、催芽にあたって、水を１回ごとに交換する。

はとむね催芽器使用上の留意点

・はとむね催芽器を使用すると、細菌病が増加しやすいのでなるべく使用しない。
・使用する場合は次の手順で行うとよい。

消毒籾
↓
停滞水（水温**１０℃**で４日間）で浸種
↓
水（水温**１５℃**）を循環させて２日間浸種
↓
水温を高めて（水温**３０℃**）循環させ、１日間催芽
↓
は種

その他の注意事項
・消毒後の籾は有害であるから食用や飼料には用いない。
・使用済みの薬液や浸種液は河川や池等に流さず適正に処理する。

は　　種

・床土のｐＨは 4.5～5.1 程度とする。ｐＨが高いともみ枯細菌病やムレ苗が、低いと苗立枯細菌病が発生しやすい（くんたんはｐＨが高いため、床土に混ぜる場合はｐＨが上がりすぎないように注意）。
・苗立枯病防除のため、薬剤の混和・灌注を行う（苗立枯病の種類によって薬剤が異なる。
・育苗資材の洗浄・消毒。
・厚播き、多肥を避ける。

出　　芽

・病原菌の増殖・蔓延防止のため、**３０℃**を超えないように管理する。
・出芽を揃える。

育　　苗

・温度：夜間**５℃**以下、昼間**２５℃**以上にならないように管理する。温度が高いと細菌病蔓延のリスクが爆発的に高まる。
・水管理：過灌水、乾燥を避ける（天気の良い日の早朝に行い、灌水量は必要最小限とする）。
・病原菌感染防止のため、池や川の水は使用せず水道水を使う。
・防除：苗立枯病の発生をみたら薬剤を灌注する。細菌病には発病後の対策はない。

種子消毒剤の適用病害虫一覧（◎防除指針に採用、〇登録のあるもの、×登録のないもの）

薬剤名	処理法	ばか苗病	いもち病	ごま葉枯病	もみ枯細菌病	褐条病	苗立枯細菌病	苗立枯病	リゾープス菌	フザリウム菌	トリコデルマ菌	ピシウム菌	イネシンガレセンチュウ
ベンレートT水和剤 20	粉衣	◎	◎	◎	〇	〇	×		〇	〇	〇	〇	〇
	浸漬	◎	◎	◎	×	〇	×		〇	〇	〇	〇	〇
	吹き付け	◎	◎	◎	〇	×	×		×	×	×	×	〇
ホーマイ水和剤	粉衣	◎	◎	◎	×	×	×	〇	－	－	－	－	〇
	浸漬	◎	◎	◎	×	×	×	〇	－	－	－	－	×
スターナ水和剤	粉衣	×	×	×	〇	〇	〇	×	－	－	－	－	×
	浸漬	×	×	×	〇	〇	〇	×	－	－	－	－	×
テクリードCフロアブル	浸漬	◎	◎	◎	◎	◎	◎		〇	×	〇	×	×
	吹き付け	◎	◎	◎	◎	◎	◎		〇	×	〇	×	×
モミガードC水和剤	粉衣	◎	◎	◎	◎	◎	◎		〇	〇	〇	×	×
	浸漬	〇	〇	〇	〇	〇	〇		〇	〇	〇	×	×
	吹き付け	◎	◎	◎	◎	◎	◎		〇	〇	〇	×	×
モミガードC・DF	浸漬	〇	〇	〇	〇	〇	〇		〇	〇	〇	×	×
	吹き付け	◎	◎	◎	◎	◎	◎		〇	〇	〇	×	×
タフブロック	粉衣	〇	〇	×	〇	×	〇		〇	〇	〇	×	×
	浸漬	◎	◎	×	◎	◎	◎		〇	〇	〇	×	×
ルーチンシード FS	塗沫	×	◎	×	〇	×	×	×	－	－	－	－	×

吹き付け：塗沫処理を含む。
タフブロックの褐条病は催芽時処理。

苗立枯病、褐条病、もみ枯細菌病等適用農薬一覧（◎防除指針に採用、〇登録のあるもの）

薬剤名	対象病原菌等									
	トリコデルマ菌	ピシウム菌	リゾープス菌	フザリウム菌	褐条病	幼苗腐敗症（もみ枯細菌病菌）	苗立枯細菌病	ムレ苗防止 根の生育促進	根の伸長および発根促進	いもち病
タチガレエースM粉剤		◎		◎				◎		
タチガレエースM液剤		◎		◎				◎		
タチガレン粉剤		◎		◎				◎		
タチガレン液剤		◎		◎				◎		
ダコニール粉剤			◎							
ダコニール1000			◎							
ダコレート水和剤	◎		◎	◎						〇（苗いもち）
ベンレート水和剤	◎			〇						〇
ナエファインフロアブル		◎	◎	◎				〇		
カスミン粒剤					◎	◎	◎			
カスミン液剤					◎	〇	◎			〇（苗いもち）
フジワン粒剤								〇 ムレ苗防止	◎	〇

※育苗期間に登録のある農薬について記載

☆糸状菌による苗立枯病

・フザリウム、ピシウム、リゾープス、トリコデルマ、リゾクトニア菌などによって発生する。
・育苗環境の不良や急変により、苗が不健康なときに発生しやすい。

フザリウム菌

局部的に発生し、地際部に白いかびが見られるほか、籾を中心に白色～紅色のかびが認められる。

床土のｐＨが５．５以上の場合や緑化期以降に１０℃以下の低温にあうと発生しやすい。また、苗の活力、特に根の活力を低下させ、根を傷つけるような管理（床土の乾燥・過湿を繰り返すなど）は発病を助長する。

ピシウム菌

フザリウム菌による被害と似て坪状に発生するが、地際にかびは見られない。なお、ムレ苗は本菌による場合が多い。

床土のｐＨが高い（５．５以上）と発病しやすく、緑化期に低温（５℃以下）にあうと発病しやすい。畑土を床土に用いたり、河川や池の水を灌水に利用すると発生しやすい。

リゾープス菌

出芽期に箱全体、または一部が白いかびに覆われる。床土の表面や籾のまわりによく発生し、菌糸の層を形成する。根は短く、先端が異常にふくらんだりする。

床土のｐＨが高いと発病しやすく、出芽時に３２℃を超す高温や、緑化開始１０日頃までの低温は発病を多くする。

トリコデルマ菌

出芽時に床土表面・籾のまわりに白いかびが生え、しばらくするとかびは青緑色となる。

床土のｐＨは４．０以下で発生しやすく、土壌水分が少ない場合に発生しやすい。

リゾクトニア菌

下葉や葉鞘が灰色となり、葉腐れ症状を示す。葉鞘には菌糸がくもの巣状になり、初め白色、後に褐色の小さな菌核を作る。

本菌は野菜なども侵すので、畑土を床土として用いると発生しやすい。

☆細菌による苗立枯病

・いったん発生すると効果のある防除薬剤がないため予防を徹底する。

もみ枯細菌病

坪枯れ状に発生し、腐敗した苗の芯葉を引っ張ると容易に抜ける。腐敗した苗は悪臭を放つ。

浸漬中に保菌籾から健全籾へ感染する。水温が１０℃の場合感染は少ないが、水温が高くなるほど感染が進む。また、催芽温度も２０℃～３３℃では、温度・出芽温度が高いほど（２５＜３０＜３５℃）発病が激しくなる。土壌は粘土質で水持ちがよいほど、ｐＨが高いほど発病が多くなる。透水性がよく、ｐＨが５．１以下では発病は少なくなる。は種密度が高くなるほど、窒素肥料の施用が多いほど発病が多くなる。

褐条病

出芽中に激しく発病すると腐敗枯死する。病気の進展が遅い場合は、２～３葉期に達した苗の葉鞘に暗褐色の条斑が現れる。条斑は葉身にも見られる。発病苗は育苗箱内に均一に分散して発生することが多く、坪枯れとはならない。

はとむね催芽器を使用すると多発しやすい。出芽および緑化期の高温は発生を多くする。出芽温度が３２℃より低い温度では発病が少ない。

苗立枯細菌病

普通坪状に発生するが、ひどいときは箱全体の苗が枯死する。通常葉芯は腐敗しないため、引っ張っても抜けにくく、枯死した苗は先端がロール状に巻き、赤茶けた状態で乾枯する。病原菌は催芽時に急激に増加し、緑化期あるいは硬化期に発病する。

出芽および緑化期の高温、土壌の乾湿は発生を助長する。人工培土で発生しやすい。